

# 令和4年度第1回大分県総合教育会議次第

令和4年6月7日（火）  
10：30～12：00  
県庁舎本館4階第一応接室

## 1 開会

## 2 あいさつ

## 3 議題

(1) 高等学校のさらなる魅力化・特色化に向けた取組について

(2) 子どもをめぐる諸課題について

①ヤングケアラーへの支援について

②不読率の改善について

## 4 閉会

## ○社会情勢の変化

人工知能（AI）やIoT等によるSociety5.0時代への対応や、さらなる少子高齢化など地方創生に係る課題等に加え、新型コロナウイルス感染症により一層先行きが不透明な状況

## ○国（文部科学省）の動き

（中央教育審議会審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（R3.1月）を踏まえた制度改正【R3.3月文科省通知】）

- ・高等学校の社会的役割（スクール・ミッション）、学校の教育方針（スクール・ポリシー）の策定・明示
- ・高等学校の学科（特に普通科）設置の弾力化（『普通科改革』、『専門学科改革』等）、高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備

## ○本県の課題

- ・現在設置されている、すべての県立高校の、さらなる魅力化、特色化による、選ばれる学校づくりの推進
- ・今後のさらなる生徒数減少により定員減が危惧される、地域の高校の維持・活性化に向けた工夫



## 今後の取組（基本的な考え方）

20年後、30年後の社会を見据えた、さらなる魅力ある、地域とともにある学校づくりに向けた具体的取組の方針を検討。

## 【新しい時代を見据えた「学校の魅力化・特色化」】

### 1 すべての県立高校の魅力向上に向けた取組

- ▶ スクール・ミッション、スクール・ポリシーの検討（R5年度末の策定・公表を目途とする）

### 2 普通科改革について

- ▶ 外部連携など多様な学びの実現に向けた普通科系学科の在り方検討 等

### 3 専門学科改革について

- ▶ IT人材の育成など産業界のニーズを踏まえた専門学科の在り方検討 等

### 4 地域とともにある学校・魅力ある学校づくりについて

#### ○地域の強みを活かした学びの検討

地域資源を活用した学びの実践（例：地域のクリエイティブ人材活用、宇宙産業に関連した学び 等）

#### ○地域の高校の活性化を図るための生徒募集の工夫

地域と連携した生徒募集の工夫（例：全国募集実施校の拡大） ※現在 久住高原農業高校のみ

#### ○魅力ある学校づくりに地域が参画する体制の構築

地域コンソーシアム、コミュニティ・スクール（CS）の導入、活用等 ※現在 CSは久住高原、珍珠美山



全国からの生徒も活躍する久住高原農業高校

## 【県内普通科での多様な学びの実践例】



由布高校による 庄内中学校ドローン出前授業



宇佐高校でのクリエイティブ人材による探究学習

# 地域とともにある学校づくりについて ~県立高校における地域と連携した魅力ある学校づくり~

## 【取組の概要】

○県立高等学校と地域が連携・協働し、生徒の学力向上や学校の特色化を図る取組を行うことで、生徒の進路実現を図るとともに、地域に信頼され中学校に選ばれる学校づくりを推進

### 《これまでの経緯》

- H28年～H30年度 地域の高校活性化支援事業
- H31年～R2年度 地域の高校魅力化・特色化推進事業

### 成果

- 地域への理解や愛着が深まった生徒数が増加
- 高校に対する理解が深まった地域中3生保護者の増加
- 魅力化の取組により志願者増につながった学校あり

### 課題

- 地域へのさらなるPR活動・情報発信
- 外部人材のさらなる活用による徹底した特色化推進
- 入学希望者のさらなる増加

## 令和3年度の取組 『地域との協働による高校魅力化推進事業』 採択校18校（大分市・別府市以外の地域の高校）

### A『地域の課題探究』プロジェクト

- 地域貢献に積極的に関わろうとする意思を持つ人材の育成
- 地域課題解決に係る探究学習を生徒のキャリア形成に反映

### B『地域の活力創出』プロジェクト

- 地域行事への積極的参加による伝統文化保護活動
- 地域の活性化につながる特色ある部活動の推進

### C『地域の学び連携』プロジェクト

- 地域の小中学校と連携した地域全体の学力向上への貢献
- 学びを通じた中学生との交流の成果としての発表力向上

## 令和3年度の重点的取組 (持続可能な地域との協働体制構築)

### 地域人材の活用

- ・学校と地域をつなぐ人材を発掘  
→商工観光労働部など関係機関と連携  
→キャリア教育における小中高の連携  
→地域を担う人材づくり

### コンソーシアムの構築

- ・コンソーシアム(共同事業体)構築に  
取り組み、育成する力・育てたい生徒像  
の共有化  
→持続可能な取組とするための組織づくり



実際の取組例

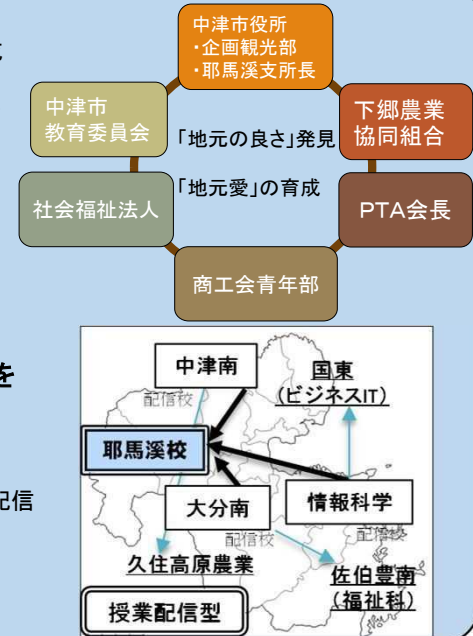
## 中津南高校耶馬溪校

### ・地域とつながり学ぶ「耶校プロジェクト」の実施

- 地域の課題探究や活力創出に寄与し、表現力の育成や主体性の醸成につなげる
- 地元職業人にスポットを当てたドキュメンタリー動画の制作
  - ・動画作成を通じて協調性や積極性を習得
- 地域の環境保全・啓発活動への参加
  - ・20年目を迎えた「ホテル授業」を通じ、耶馬溪の自然やホテルの見識の深化
- 高齢者サロン「だいたいクラブ」活動
  - ・生徒自身による企画・立案・運営により、参加した高齢者の満足度100%達成

### ・中山間地域の高校を受信校とし、都市部の高校を配信校とするネットワークを構築

- 生徒の多様な進路実現に向けた教育・支援が可能
- 習熟度別授業配信型
  - ・英語・数学等で習熟度に応じた授業を小規模校に配信
- 専門科目特化型
  - ・地域人材の育成を目指して福祉系科目を配信
- 産学連携事業配信型
  - ・企業と連携したSTEAM教育の実践活動を配信



## 子どもの力と意欲の向上に向けた組織的取組の推進

### ○学力

- ・新大分スタンダード(1時間完結型、板書の構造化など)
- ・教科担任制の推進(小学校高学年)

### ○体力

- ・「一校一実践」による運動の習慣化・日常化
- ・体育専科教員等を中心とした授業力向上

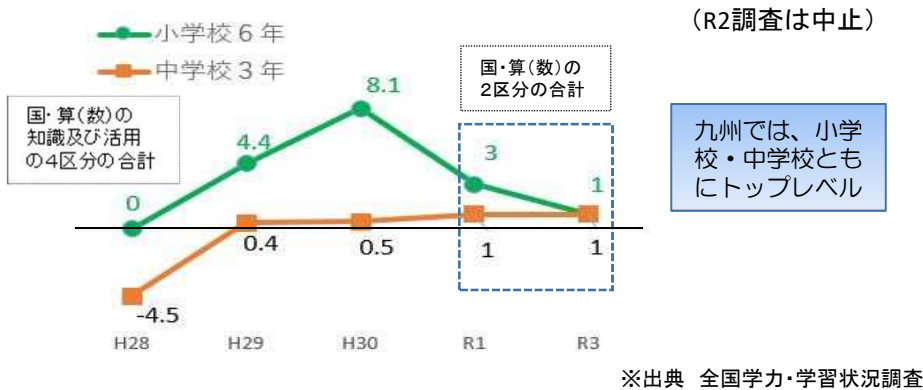
### ○進学力

- ・「目指す授業像」への3つのビジョン(方向性)と6つのアクション(方策)
- ・指導教諭をリーダーとした授業改善の推進

### ○就職力

- ・キャリアプロデューサーの活用
- ・職場体験(中学校)、インターンシップ(高校)の実施

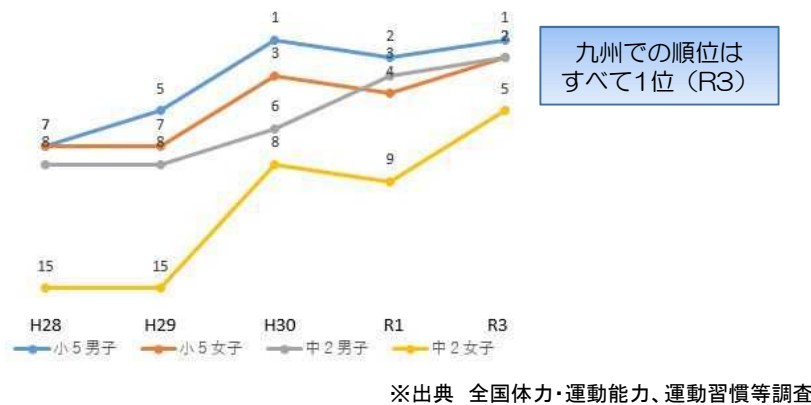
全国学力・学習状況調査の結果(平均正答率の全国値との比較)



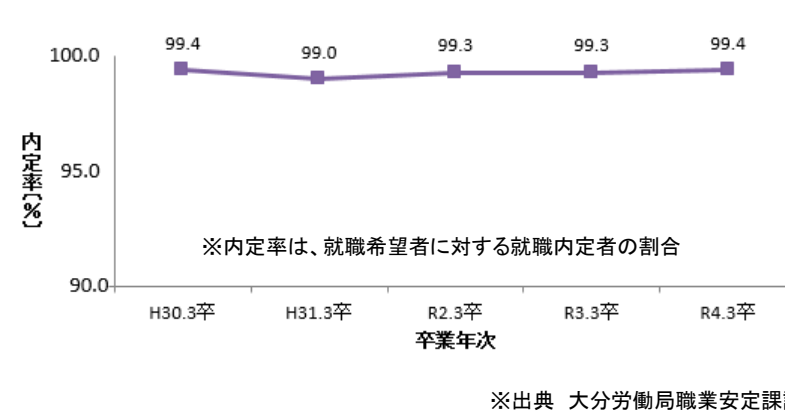
国立大学現役合格率



体力合計点の全国順位 (R2調査は中止)



高等学校新規卒業者の就職状況



# ヤングケアラーへの支援について

こども・家庭支援課

資料3

ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども

## R3県独自実態調査

○対象：大分県内の小学校5年生～高校3年生（無記名） ○調査実施：令和3年10～11月

○人数：79,550人 うち回答数 57,259人（回答率72.0%）

- ・「お世話をしている人がいる」2,315人（4.0%）
- ・「お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことがある」724人（1.3%）

小5	小6	小学生計	中1	中2	中3	中学生計	高1	高2	高3	高校生計	合計
165	101	266	117	104	85	306	49	46	57	152	724

声を上げることができない子どもを察知し、支援に繋げる仕組みづくりが急務！

支援を要するヤングケアラーが1,000人程度存在（79,550人×1.3%≒1,000人）

## 県の取組

～周知啓発と、適切な支援に繋がれる相談体制を構築～

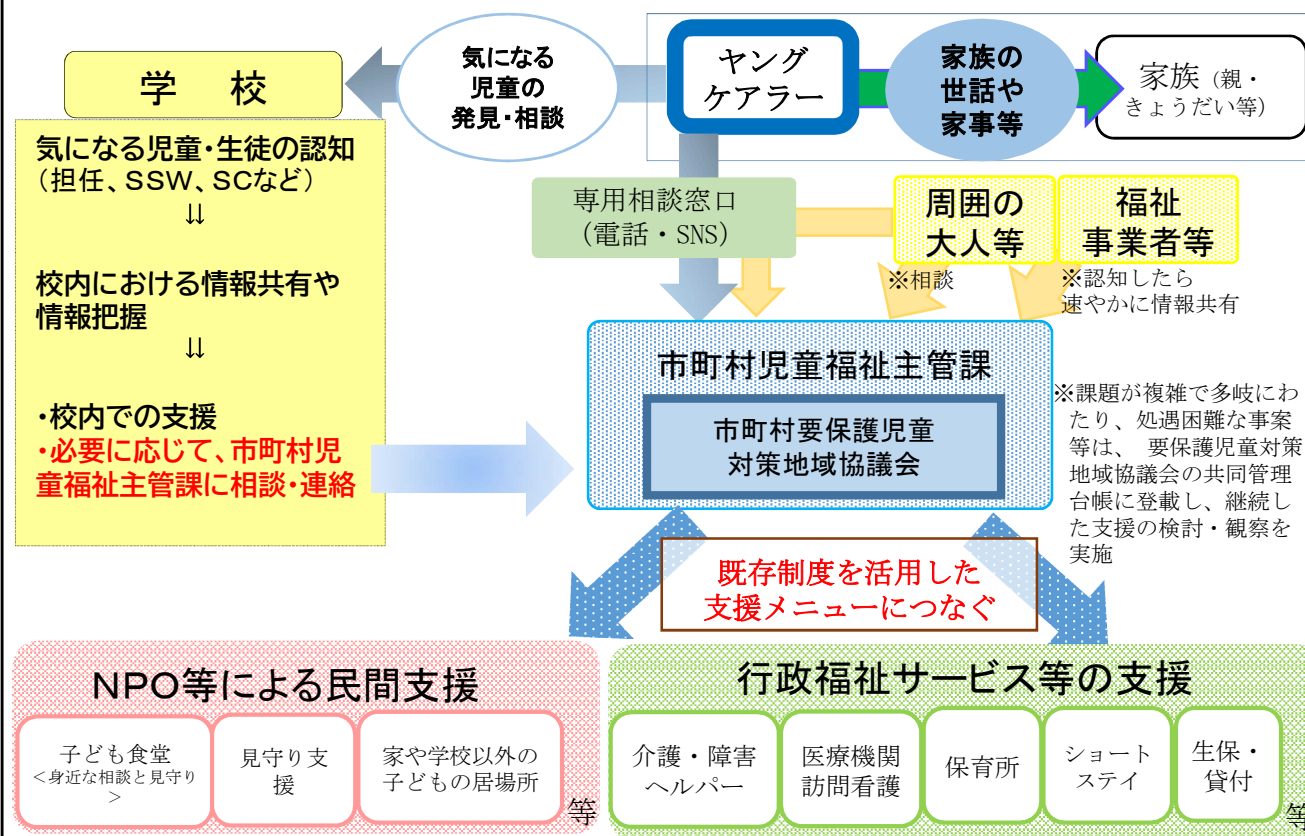
### ①児童・生徒への周知・啓発と周囲の気づき

- ・全児童・生徒向け相談先カード、学校用ポスターを配布
- ・教職員向けweb研修動画の配信
- ・県下ブロック単位の合同研修（民間こども支援団体等）
- ・県民フォーラム
- ・ヤングケアラー・アドバイザーの配置（出前授業や研修コーディネート等）

### ②相談窓口の設置（相談しやすい環境づくり）

- ・専用相談窓口等の開設（R4.4）※R4.5.27現在相談件数0件  
電話・SNS：24時間、365日対応  
必要に応じて市町村等の機関につなぐ
- ・SSW・SCの配置強化  
SSW：6H→7H勤務 SC：対応時間を拡充  
※SSW（スクールソーシャルワーカー）  
SC（スクールカウンセラー）

## ヤングケアラーに対する具体的な対応（イメージ）～学校で発見した場合～



## 「第4次大分県子ども読書活動推進計画」(R2.3~R7.3)

### 【目標】

- I 生きる力を育む読書習慣の形成
- II いつでもどこでも質の良い読書に親しめる環境の整備

### 【重点方針】

- 1 子どもの発達段階に応じた読書習慣の形成
- 2 子どもの読書への関心・意欲を向上させる取組の充実
- 3 子どもの読書活動をさせる人材の育成
- 4 学校・家庭・地域における読書環境の整備と本に親しむ機会の充実
- 5 子どもの読書活動に関する普及啓発活動の推進

## 読書の効果 (文部科学省「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」より抜粋)

- ・読解力や想像力, 思考力, 表現力等の養成
- ・知識の獲得, 多様な文化への理解
- ・自ら学ぶ楽しさや知る喜びの体得, 探究心や真理を求める態度の培養 等

⇒本を読まないことにより、子ども達がこれらの能力を育む機会が失われる

おそれがある

## 【現状】不読率=1か月の間に本を1冊も本を読まない割合

※不読率調査 (教科書・学習参考書・マンガ等は冊数に含まず)

	H30			R1			R2			R3		
	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校	小学校	中学校	高校
大分平均	6.1%	17.4%	35.0%	7.4%	16.2%	35.3%	6.6%	18.4%	34.3%	7.7%	16.1%	35.1%
全国平均	8.1%	15.3%	55.8%	6.8%	12.5%	55.3%	調査中止	調査中止	調査中止	5.5%	10.1%	49.8%

小・中学校について全国平均より  
数値が高い状況が続いている

※大分県数値参考：小・中学校「学力定着状況調査」(義務教育課調査) / 高校「高校1年生の読書習慣に関する調査」(高校教育課調査) ※全国数値参考：「学校読書調査」(全国学校図書館協議会実施)

## 【課題】不読率が減少しない理由

- (1) 本を読まない理由に「読みたい本がない」「何を読んだらいいかわからない」と回答する児童・生徒が多い(合計61%)【R3 社会教育課調査】
- (2) 小学5年生の保護者の28.7%が、幼少期の読みかせを積極的に行っていない  
【R1 こども・家庭支援課「大分県子どもの生活実態調査」】
- (3) 小学5年生の保護者の36%が、子どもに積極的に読書を薦めていない  
【R1 こども・家庭支援課「大分県子どもの生活実態調査」】

### 分析

- (1) 児童生徒が関心を持つような図書の情報等が当事者に届いていない
- (2) 幼少期の子どもとその保護者へのはたらきかけが不足



### 対策

- (1) 児童生徒に向けた読書のきっかけづくり=現在の不読率の改善を図る
- (2) 就学前の子どもの保護者に向けた情報発信やはたらきかけによる、幼少期からの家庭読書の啓発 =将来の不読率の改善を図る

(1) 児童生徒に向けた読書のきっかけづくり

児童生徒と学校図書館に向けた支援・現在の不読率の改善を図る

(2) 就学前の子どもの保護者に向けた情報発信やはたらきかけによる、幼少期からの家庭読書の啓発

就学前の子どもと保護者へのはたらきかけ・将来の不読率の改善を図る

乳幼児から高校生、子どもの保護者まで、幅広い年齢の人に向けた切れ目のない読書推進・読書支援を行う

現在の不読率の改善を図る

## 1. 子ども司書育成事業 (H28～)

児童生徒が主体となって読書活動の活性化に取り組むもの

子どもが主体となった読書活動活性化のため、子どもの読書リーダーを育成する。

### 【子ども司書養成講座】

小学生を対象に、読書の楽しさをPRする手法を学ぶ講座を実施。12時間以上活動した受講生を「大分県子ども司書」として認定。



本の紹介カード作製講座

### 【子ども読書イベントの開催】

市町村との公立図書館と連携して、子ども司書が運営に携わるイベントを開催。

## 2. 中学校・高等学校 (H27～) ビブリオバトル大分県大会

中高生が互いにおすすめの図書をプレゼンする大会を実施。優勝者は県代表として全国大会へ推薦する。

昨年度の中学校県大会優勝者の全国大会での発表



## 3. 小・中学生読書活動活性化事業(小・中学生ほんラブ事業) (H30～)

不読率の改善に向けて、小中学生に読書の手助けとなるおすすめ図書のセット本を提供すると共に、モデル校の域内にある学校へ事業成果を報告・普及する。

<情報ツールの提供>

<本に触れる機会の提供・学校図書館支援>

### 「チャレンジ！読書日記」の配布(H28～)

小学校低・中・高学年用におすすめ図書100冊を掲載した読書記録を記すノートを配布。

【配布方法】  
読書ノートの活用を希望する小学校へ配布(R3は102校に配布)



「チャレンジ！読書日記」1・2年生用

### モデル校における取組

推薦図書セットの貸出(1校あたり約300冊)と学校図書館運営改善のためのアドバイザー派遣を実施。

【対象】小・中学校各4校(年間8校)



中学校へのアドバイザー派遣(佐伯市立昭和中学校)

将来の不読率の改善を図る

## 4. おうち読書スタートアップ事業 (R2～)

学齢期の子どもの読書活動を定着させるため、就学前の子どもとその保護者を対象に本の紹介ツールと、実際に本に触れる機会を提供することで、各家庭で本や読書に親しむきっかけづくりを図る。

<情報ツールの提供>

<本に触れる機会の提供>

### 推薦図書の紹介

県が推薦する絵本や各図書館のイベント情報を掲載したHPの公開とそのPR。

※掲載図書は「本との出会いひろば」等で実際に触れる機会を提供

※HP紹介チラシを作成、3歳児検診等で配布

### 「本との出会いひろば」の実施(年3～4回開催)

HPで紹介した絵本を展示し、来場者が絵本に触れる機会を提供。

【対象】就学前の子どもと、その保護者等

【場所】商業施設・子育て支援施設等

【内容】おすすめ図書の展示、読書ボランティアによる読みきかせ、図書館のPR等



「本との出会いひろば」大分会場(会場:パークプレイス大分)